

施 工 計 画 書

年 月 日

愛知中部水道企業団
企 業 長 殿

指定給水装置工事事業者

工 事 名 給水装置工事及び修繕工事依頼伝票による工事

工事場所 本企业団給水区域(豊明市・日進市・みよし市・長久手市・東郷町)内

工事期間 令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日

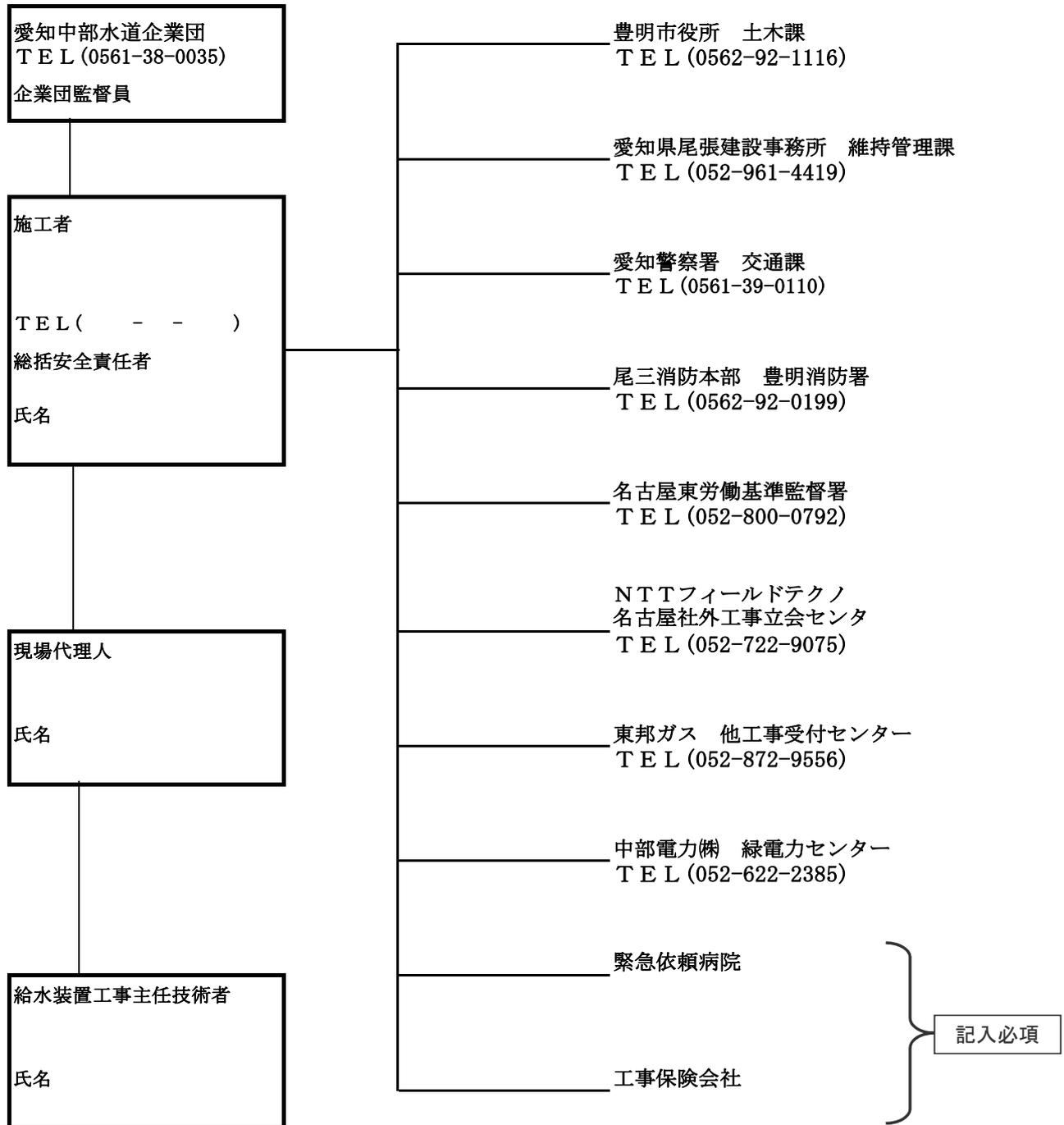
目 次

1	工 事 概 要	1 頁
2	現場組織図及び緊急連絡体制 (豊明市・日進市・みよし市・長久手市・東郷町)	2～6 頁
3	主 要 機 械	7 頁
4	作業主任者一覧表	8 頁
5	施 工 方 法	9 頁
6	安全対策及び安全衛生計画について	10 頁
7	交 通 管 理	11～13 頁
8	残土及び建設廃材処理計画	14 頁
	別表イ 再生資源利用計画書（実施書）	15 頁
	別表ロ 再生資源利用促進計画書（実施書）	16 頁

1 工 事 概 要

- ① 工 事 名 給水装置工事及び修繕工事依頼伝票による工事
- ② 工事場所 本企業団給水区域(豊明市・日進市・みよし市・長久手市・東郷町)内
- ③ 工事期間 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日

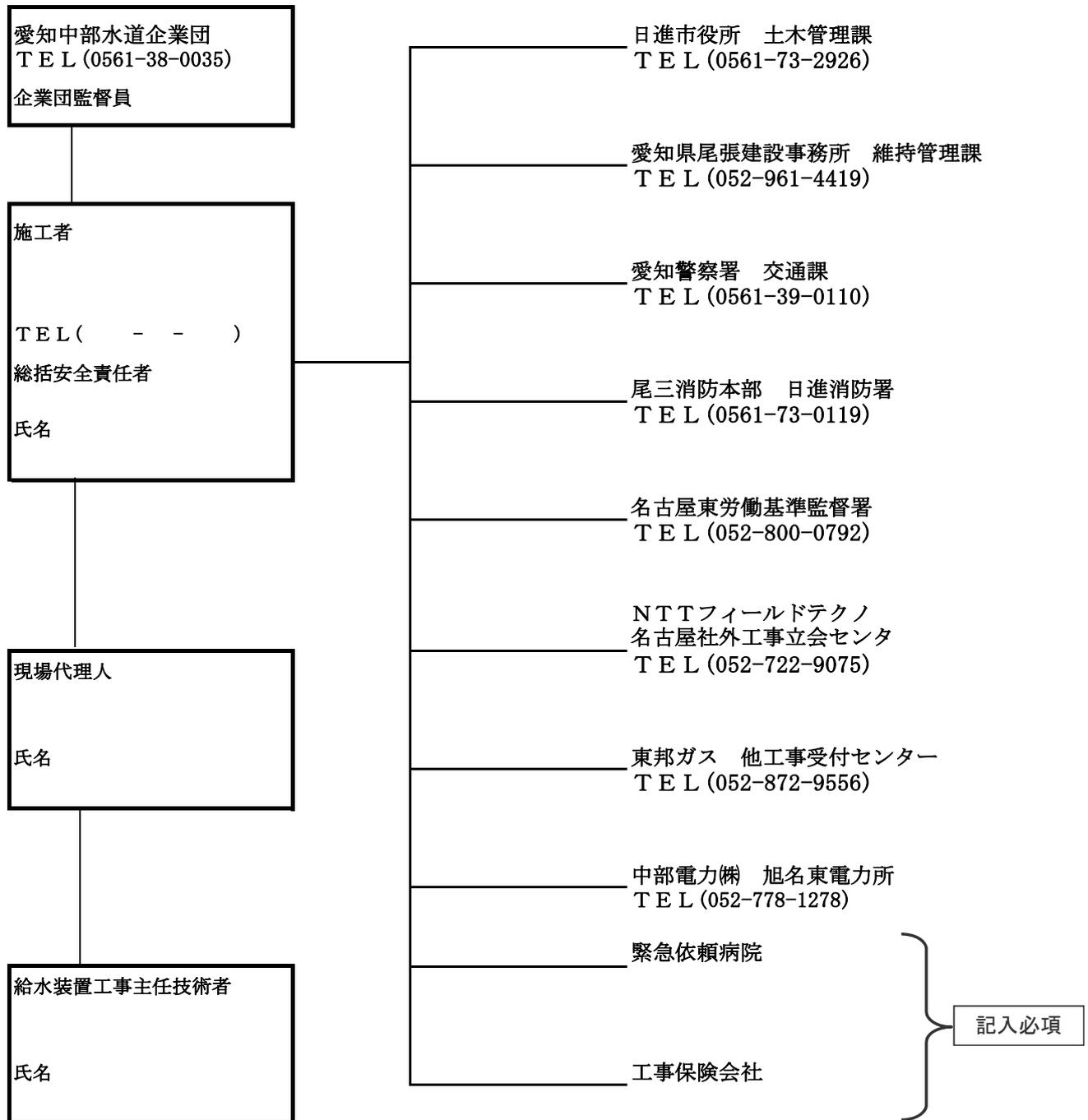
2-1 現場組織図及び緊急連絡体制（豊明市）



※大雨、出水、強風、地震等の異常気象で災害発生の恐れがある場合、上記の組織構成で常配備体制に入り、必要に応じ現場内を巡視して警戒します。

緊急発生時には、上記連絡体制により直ちに企業団担当者に連絡を取ると共に、関係各所に速やかに連絡し、最善の対応をします。

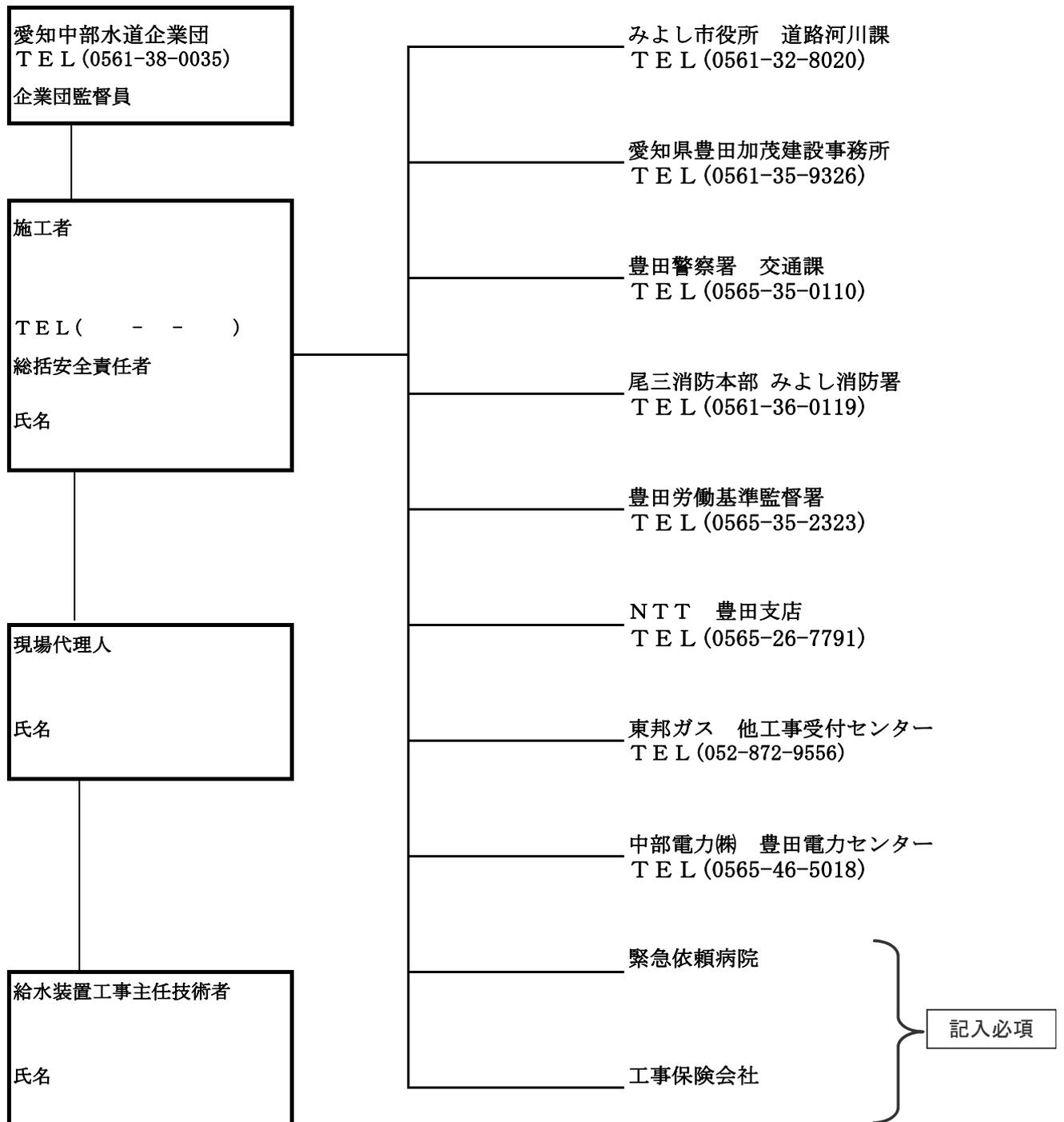
2-2 現場組織図及び緊急連絡体制（日進市）



※大雨、出水、強風、地震等の異常気象で災害発生の恐れがある場合、上記の組織構成で常配備体制に入り、必要に応じ現場内を巡視して警戒します。

緊急発生時には、上記連絡体制により直ちに企業団担当者に連絡を取ると共に、関係各所に速やかに連絡し、最善の対応をします。

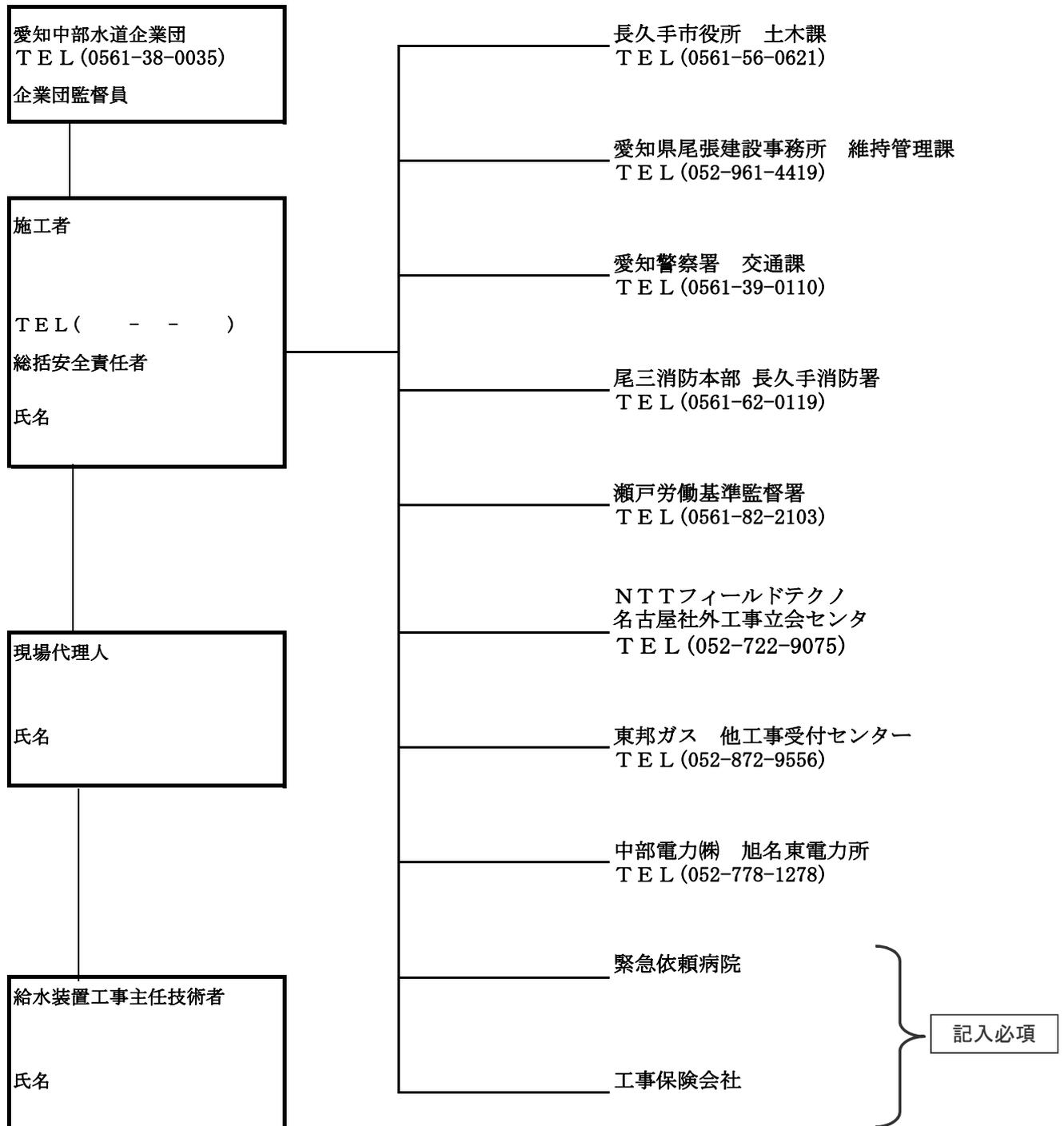
2-3 現場組織図及び緊急連絡体制（みよし市）



※大雨、出水、強風、地震等の異常気象で災害発生の恐れがある場合、上記の組織構成で常配備体制に入り、必要に応じ現場内を巡視して警戒します。

緊急発生時には、上記連絡体制により直ちに企業団担当者に連絡を取ると共に、関係各所に速やかに連絡し、最善の対応をします。

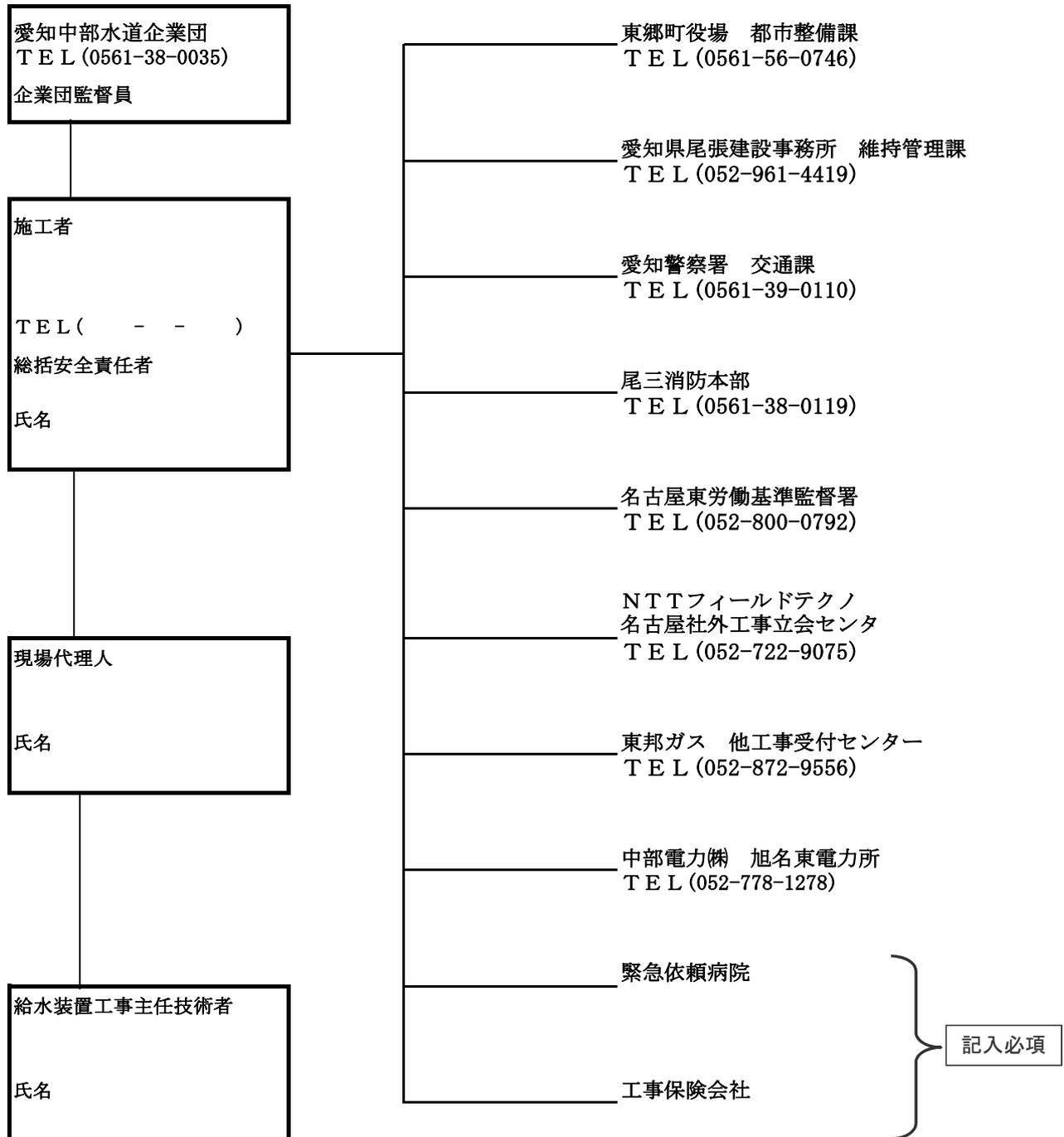
2-4 現場組織図及び緊急連絡体制（長久手市）



※大雨、出水、強風、地震等の異常気象で災害発生の恐れがある場合、上記の組織構成で常配備体制に入り、必要に応じ現場内を巡視して警戒します。

緊急発生時には、上記連絡体制により直ちに企業団担当者に連絡を取ると共に、関係各所に速やかに連絡し、最善の対応をします。

2-5 現場組織図及び緊急連絡体制（東郷町）



※大雨、出水、強風、地震等の異常気象で災害発生の恐れがある場合、上記の組織構成で常配備体制に入り、必要に応じ現場内を巡視して警戒します。

緊急発生時には、上記連絡体制により直ちに企業団担当者に連絡を取ると共に、関係各所に速やかに連絡し、最善の対応をします。

3 主要機械

種別	作業機械	仕様・規格	台数
掘削	油圧式バックホー	m ³	台
	油圧式バックホー	m ³	台
資材運搬	トラック クレーン	吊り	台
残土運搬	ダンプトラック	t車	台
	ダンプトラック	t車	台
残土整形	小型ブルドーザー	t	台
埋戻整形	振動機 (タンパー)	kg	台
	振動機コンパクター	kg	台
舗装復旧	振動ローラー	t	台
	振動ローラー	t	台
水替	水中ポンプ	φ	台

5 施 工 方 法

工 種	施 工 方 法
現 地 調 査	企業団監督員及び地元関係者と打合せし、施工方法を検討する。 必要に応じ地下埋設物を調査する。
掘 削	深堀にならない様充分注意し、人力にて床堀を行う。既設構造物があるところ等は人力にて掘削する。
配 管	指定材料を使用し、施工前に監督員の材料検査を受け、管内にゴミや砂利等の異物が入らない様、注意して施工する。 管接合は愛知中部水道企業団共通仕様書を充分理解した、豊富な実務経験と知識を有した資格者が行う。
埋 戻	管天10cmまでは山砂を用い、人力にて片締めにならない様充分注意して行う。それ以上は機械にて行う。 転圧は人力、タコ、コンパクター、タンパー等を使用して、充分な転圧を行う。
路面仮復旧工	厚さ・幅等の寸法を確認する。
路面本復旧工	道路占用条件を遵守し、施工資格のある自社又は依頼業者が施工し良質な工事を行う。

6 安全対策及び安全衛生計画について

安全には万全を期すと共に意識の高揚を図るため、以下の対策及び計画を実施する。

- ・ 毎朝KYミーティング、ツールボックスミーティングを実施する。
- ・ 当日の作業内容と注意点を確認する。
- ・ 労働災害の防止のため、車両系建設機械の運転及び操作は、必ず有資格者が行う。

工事について

- ・ 近隣住民に対し、必要に応じて工事内容の説明及び協力依頼をする。
- ・ 地下埋設物の有無を確認する。
- ・ 作業環境の整備をする。
- ・ 歩行者等の安全通路の確保及び交通安全の維持確保を図る。
- ・ 必要に応じてガードマン等の誘導員を配置する。
- ・ 工事中建設機械類及び保安設備の点検整備をする。
- ・ 工法の安全化及び工程の適正化を図る。
- ・ 建設機械等の操作による騒音、振動及び塵埃等の発生を軽減するよう配慮する。
- ・ 工事による規制範囲を最小限にとどめ、通行等の障害にならないよう作業時間を設定する。
- ・ たえず現場内の整理、整頓、清潔に努める。
- ・ その他、安全管理について全員で話し合う。

7 交通管理

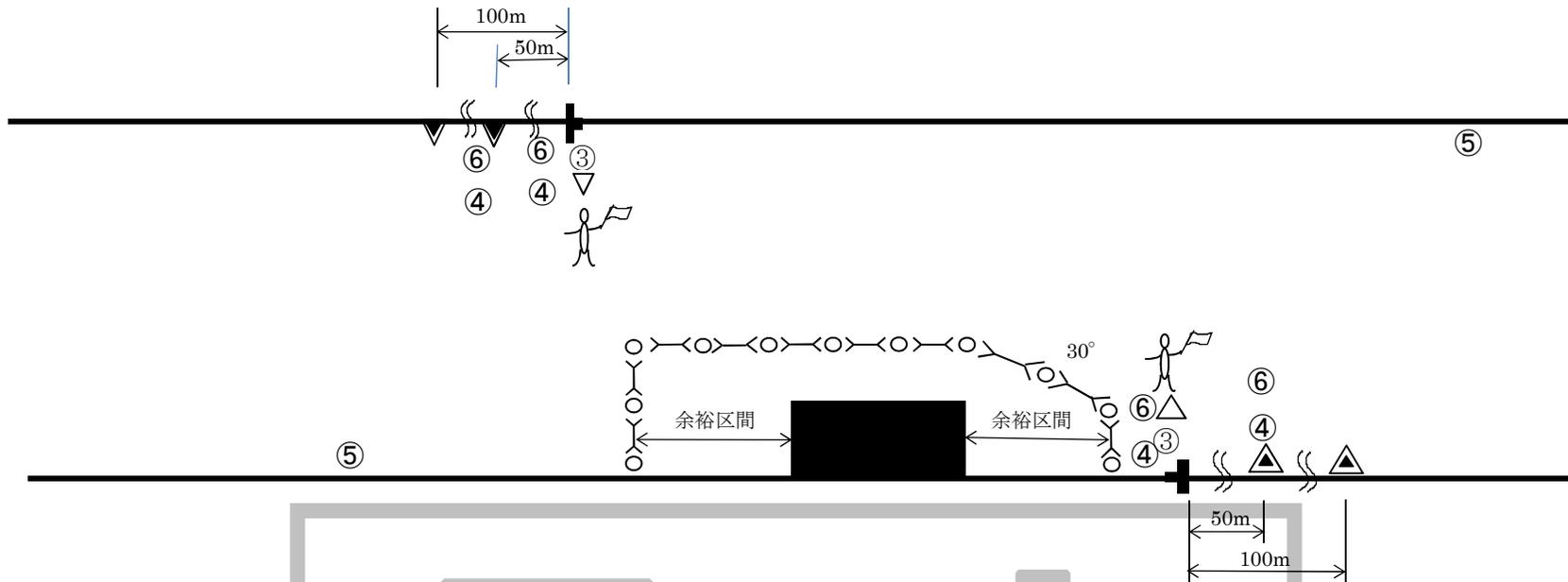
各所轄に許可された道路使用書に従い、工事標識、保安設備、交通誘導員を完備すると共に、特に夜間交通に対するバリケード、工事灯などの配置には注意します。また、必要に応じて一般交通、歩行者の安全を図ります。

(1) 土砂等の運搬に対する注意事項

- ①通学時間帯の運行の自主規制を徹底します。
- ②交通規制、速度規制、積載量を遵守します。
- ③指定道路以外の通行は禁止すると共に、通学道路及び現場内は徐行運転します。
- ④標識、保安設備等について、パトロールによる自主監視を強化します。

(2) 保安設備図（別紙）

保安設備図 片側交互通行



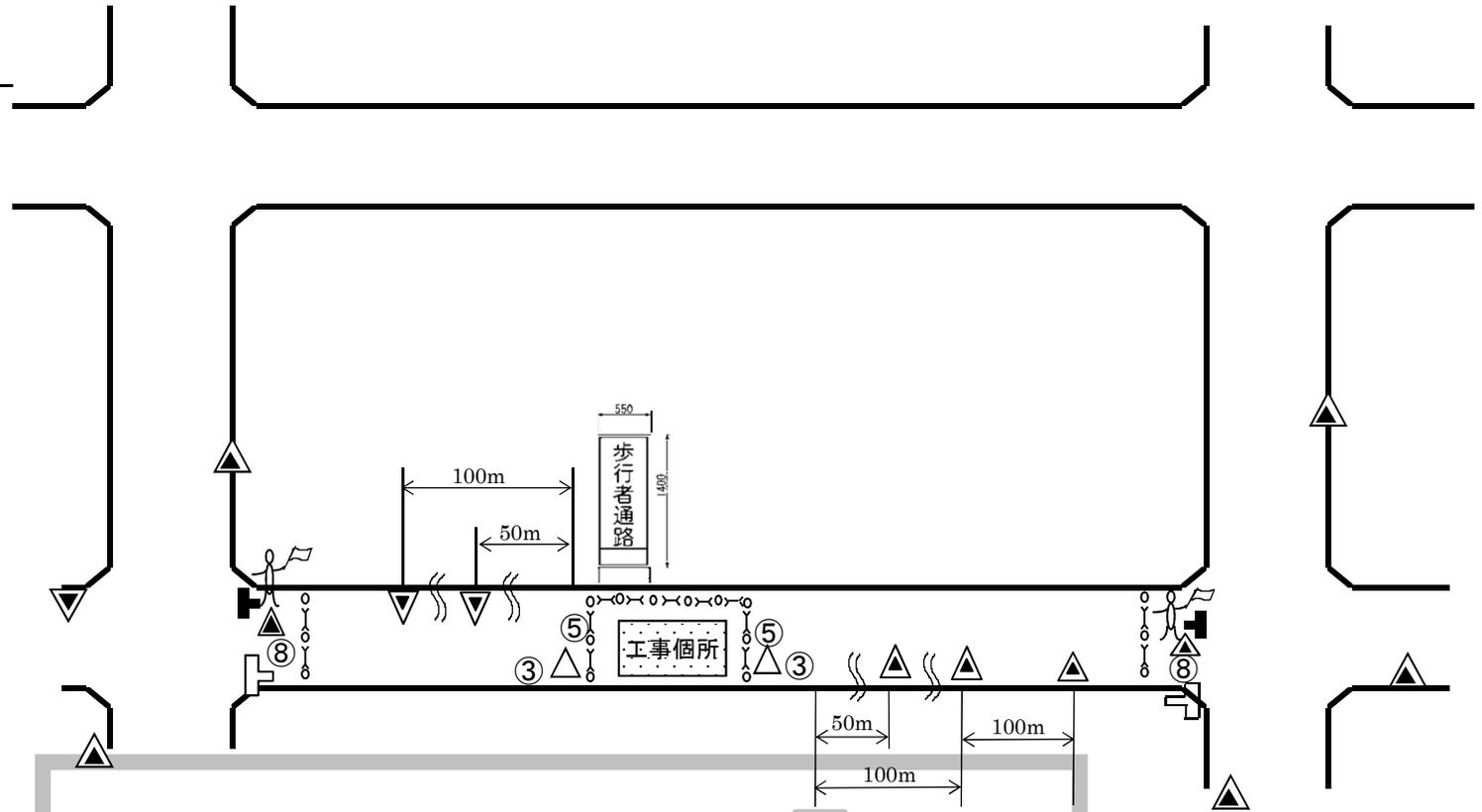
注 余裕区間長は、工事施工延長、資器材の配置状況により決定するが、一般に10mを標準とする。工事期間中両端に交通誘導員を配置する。

-記号凡例-

- ① : 211 警戒標識(車線減少) ② : 212-2 警戒標識(二方向通行) ③ : 311-F 規制標識
- ④ : 329 規制標識 ⑤ : 「工事区間終り」看板 ⑥ : 「片側交互通行」標識
- ⑦ : 工事説明板

- : 工事表示板 — : 301 標識 ○ : カラーコーン
- : まわり道案内板 ≡ : 工事情報板 ≡ : パネルフェンス
- △ : 213 警戒標識 ⊙ : 回転灯 ≡ : トラ柵・コーンバー
- ▲ : 補助板付き213警戒標識 ♂ : スポット型水銀灯 人 : 交通誘導員

保安設備図 通行止



注 余裕区間長は、工事施工延長、資器材の配置状況により決定するが、一般に10mを標準とする。工事期間中両端に交通誘導員を配置する。

-記号凡例-

- ① : 211 警戒標識(車線減少)
- ② : 212-2 警戒標識(二方向通行)
- ③ : 311-F 規制標識
- ④ : 329 規制標識
- ⑤ : 「工事区間終り」看板
- ⑥ : 「片側交互通行」標識
- ⑦ : 工事説明板

- : 工事表示板
- : まわり道案内板
- △ : 213 警戒標識
- ▲ : 補助板付き213警戒標識
- : 301 標識
- : 工事情報板
- : 回転灯
- ⊗ : スポット型水銀灯
- : カラーコーン
- : パネルフェンス
- > : トラ柵・コーンバー
- 人 : 交通誘導員

8 残土及び建設廃材処理計画

再生資源の利用の促進に関する法律及び愛知県建設副産物リサイクルガイドライン実施要綱に基づき、再生資源の利用促進及び建設副産物の処理方法に関する事項を記述する。

項目	処理業者	処理地	運搬距離 (km)	備考
アスファルト塊				処理業者名、処理地、概算運搬距離を記入
コンクリート塊				処理業者名、処理地、概算運搬距離を記入
建設発生土				処理業者名、処理地、概算運搬距離を記入
金属くず				処理業者名、処理地、概算運搬距離を記入
廃プラスチック				処理業者名、処理地、概算運搬距離を記入

添付書類

- ・別表イ 再生資源利用計画書(実施書)
- ・別表ロ 再生資源利用促進計画書(実施書)
- ・建設発生土受入地の関係法令に基づく許可書(民間受入地の場合に限る。)の写し
- ・収集運搬、処理業者の許可書の写し
- ・廃棄物処理委託契約書の写し
- ・運搬ルート図(仮置き場と最終処理場所を明記)

別表イ 再生資源利用計画書(実施書) —建設資材搬入工用—

※ 内のみ記入してください

1.工事概要(実施)		発注担当者チェック欄	請負会社	請負会社コード*2	表面
発注機関名	発注機関コード*1	担当者	建設業許可または解体工事業登録(該当であれば記入)	大臣 知事	号
	TEL		会社所在地	TEL	記入年月日 R. 年 月 日
				FAX	工事責任者
					調査票記入者
工事名	工程種別コード*3	請負金額	左記金額のうちの再資源化等に要した費用		
工事施工場所	都道市区 府県 町村	住所コード*4	令和 6年 4月 1日から 令和 7年 3月 31日まで	千 百 十 億 千 百 十 万 1万円未満四捨五入 0,000円(税込み)	千 百 十 億 千 百 十 万 1万円未満四捨五入 0,000円(税込み)
工事概要	給水装置工事及び修繕工事依頼伝票による工事	施工条件の内容(再生資源の利用に関する特記事項等)	令和 年 月 日	再資源化等が完了した年月日	
			建築・解体工事のみ 右欄に記入してください		
				建築面積	地上 階
				延床面積	地下 階
				構造	1.鉄筋コンクリート造 2.鉄筋コンクリート造 3.鉄骨造 (数字に○をつける) 4.コンクリートブロック造 5.木造 6.その他
				用途	1.居住専用 2.居住産業併用 3.事務所 (数字に○をつける) 4.店舗 5.工場、作業所 6.倉庫 7.学校 8.病院診療所 9.その他

2.建設資材利用計画(実施) 注:コード*5~9は下記欄外のコード表より数字を選んでください。

*解体工事については、建築面積をご記入いただかなくても結構です。

建設資材(新材を含む)				再生資材の供給元 (再生資材を利用した場合に記入してください)				再生資源利用率					
分類	小分類コード*5	規格	主な利用用途コード*6	利用量(A)	再生資材の供給元施設(購入先)、工事等の名称	供給元種類コード*7	施工条件内容コード*8	再生資材の供給元場所住所	住所コード*4	再生資材の名称コード*9	再生資材利用量(B) (注1)	再生資源利用率 B/A×100	
特定建設資材	コンクリート			トン							トン	%	
				トン								トン	%
		合計		トン								トン	%
	コンクリート及び鉄から成る建設資材				トン							トン	%
					トン							トン	%
		合計		トン								トン	%
	木材				トン							トン	%
					トン							トン	%
		合計		トン								トン	%
	アスファルト混合物				トン							トン	%
				トン							トン	%	
合計			トン								トン	%	
その他の建設資材	土砂			締めm3							締めm3	%	
				締めm3								締めm3	%
				締めm3								締めm3	%
		合計		締めm3								締めm3	%
	砕石	RC		m3								m3	%
				m3								m3	%
		合計		m3								m3	%
	その他(再生資材のみ記入)				トン							トン	%
					トン							トン	%
		合計		トン								トン	%

- コード*5
コンクリートについて
- 生コン
 - 無筋コンクリート二次製品
 - その他
- コンクリート及び鉄から成る建設資材
- 鉄筋コンクリート二次製品
 - その他
- 木材について
- 木材(ボード類を除く)
 - 木質ボード
- アスファルト混合物について
- 粗粒度アスコン
 - 密粒度アスコン(開粒度及び改質アスファルトコンクリートを含む)
 - 細粒度アスコン
 - アスファルトモルタル
 - 加熱アスファルト安定処理路盤材
- 土砂について
- 第一種建設発生土
 - 第二種建設発生土
 - 第三種建設発生土
 - 第四種建設発生土
 - 浚渫土
 - 土質改良土
 - 建設汚泥改良土
 - 再生コンクリート砂
 - 山砂、山土等の購入土、採取土
- 砕石について
- クラシャーラン
 - 粒度調整砕石
 - 鉱さい
 - 単粒度砕石
 - ぐり石
 - その他
- その他について(再生資材の名称を具体的に記入)

- コード*6
アスファルト混合物について
- 表層
 - 基層
 - 上層路盤
 - 歩道
 - その他(駐車場舗装、敷地内舗装等)
- 土砂について
- 道路路体
 - 路床
 - 河川築堤
 - 構造物等の表込材、埋戻し用
 - 住宅造成用
 - 水面埋立用
 - ほ場整備(農地整備)
 - その他(具体的に記入)
- 砕石について
- 舗装の下層路盤材
 - 舗装の上層路盤材
 - 構造物の表込材、基礎材
 - その他
- その他について(利用用途を具体的に記入)

- コード*7
再生材の供給元
- 現場内利用
 - 他の工事現場(陸上)
 - 他の工事現場(海上)
 - 再生資源化施設
 - ストックヤード
 - その他

- コード*8
施工条件について
- 再生材の利用の指示あり
 - 再生材の利用の指示なし

- コード*9
コンクリートについて
- 再生生コン
 - 再生無筋コンクリート二次製品
 - その他
- コンクリート及び鉄から成る建設資材について
- 再生有筋コンクリート二次製品
 - その他
- 木材について
- 再生木材(ボード類を除く)
 - 再生木質ボード
- アスファルトコンクリート混合物について
- 再生粗粒度アスコン
 - 再生密粒度アスコン(開粒度及び改質アスファルトコンクリートを含む)
 - 再生細粒度アスコン
 - 再生アスファルトモルタル
 - 再生加熱アスファルト安定処理路盤材
- 土砂について
- 第一種建設発生土
 - 第二種建設発生土
 - 第三種建設発生土
 - 第四種建設発生土
 - 浚渫土
 - 土質改良土
 - 建設汚泥改良土
 - 再生コンクリート砂
 - 山砂、山土等の購入土、採取土
- 砕石について
- 再生クラシャーラン
 - 再生粒度調整砕石
 - 鉱さい
 - その他
- その他について(再生資材の名称を具体的に記入)

- 注1:再生資材利用量について
- アスファルト混合物等で、利用した再生材(製品)の中に、新材が混入し低る場合であっても、新材混入分を含んだ再生資材(製品)の利用量を記入してください。

別表ロ 再生資源利用促進計画書(実施書) —建設副産物搬出工事用—

※ 内のみ記入してください

1. 工事概要 表面(別表イ)に必ずご記入ください

建築工事において、解体と新築工事を一体的に施工する場合は、解体分と新築分の数量を区分し、それぞれ別に様式を作成して下さい。

裏面

2. 建設副産物搬出計画(実施)

現場内利用の欄には、発生量(掘削等)現場内で利用したものについて御記入ください。

コード*14(コード*13で「7.内陸処分場」を選択した場合のみ記入)

1.山砂利等採取跡地 2.処分場の覆土 3.池沼等の水面埋立 4.谷地埋立 5.農地受入 6.その他

建設副産物の種類	①発生量 (掘削等) =②+③+④	現場内利用・減量			現場外搬出について										再生資源利用促進率 ②+③+⑤ ① (%)			
		現場内利用		減量化 ③減量化量	搬出先名称 3ヶ所まで記入できます。4ヶ所以上にわたる時は用紙を換えて下さい。	区分 どちらかに○を付けてください	施工条件の内容 コード*12	搬出先場所	住所コード *4	連搬距離 千 百 十 十	搬出先の種類 コード*13	受入地の用途 コード*14	④現場外搬出量			⑤再生資源利用促進量 (注2)		
		用途 コード*10	②利用量										うち現場内改良分	うち現場内改良分			⑤再生資源利用促進量 (注2)	
特定建設資材廃棄物																		
コンクリート塊	トン		トン	トン	搬出先1	公共	民間						トン	トン	トン			%
建設発生木材 (木材が廃棄物になったもの)	トン		トン	トン	搬出先1	公共	民間						トン	トン	トン			%
アスファルト・コンクリート塊	トン		トン	トン	搬出先1	公共	民間						トン	トン	トン			%
建設発生木材 (伐木材、除根材など)	トン		トン	トン	搬出先1	公共	民間						トン	トン	トン			%
建設汚泥	トン		トン	トン	搬出先1	公共	民間						トン	トン	トン			%
建設混合廃棄物	トン		トン	トン	搬出先1	公共	民間						トン	トン	トン			%
金属くず	トン		トン	トン	搬出先1	公共	民間						トン	トン	トン			%
廃プラスチック	トン		トン	トン	搬出先1	公共	民間						トン	トン	トン			%
紙くず	トン		トン	トン	搬出先1	公共	民間						トン	トン	トン			%
アスベスト (発散性)	トン		トン	トン	搬出先1	公共	民間						トン	トン	トン			%
その他の分散された廃棄物	トン		トン	トン	搬出先1	公共	民間						トン	トン	トン			%
第一種建設発生土	地山m3		地山m3	地山m3	搬出先1	公共	民間						地山m3	地山m3	地山m3			%
第二種建設発生土	地山m3		地山m3	地山m3	搬出先1	公共	民間						地山m3	地山m3	地山m3			%
第三種建設発生土	地山m3		地山m3	地山m3	搬出先1	公共	民間						地山m3	地山m3	地山m3			%
第四種建設発生土	地山m3		地山m3	地山m3	搬出先1	公共	民間						地山m3	地山m3	地山m3			%
浚渫土	地山m3		地山m3	地山m3	搬出先1	公共	民間						地山m3	地山m3	地山m3			%
合計	地山m3		地山m3	地山m3									地山m3	地山m3	地山m3			%

コード*10
1.路盤材 2.裏込材
3.埋戻し材
4.その他(具体的に記入)

コード*11
1.焼却 2.脱水
3.天日乾燥
4.その他(具体的に記入)

コード*12
施工条件について
1.A指定処分
(発注時に指定されたもの)
2.B指定処分(もしくは準指定処分)
(発注時に指定されていないが、
発注後に設計変更し指定処分とされたもの)
3.自由処分

コード*13(詳細は「表-4」参照のこと)
再生資源利用促進
(再生利用された場合)
1.他の工事現場(内陸:公共、民間をふくむ)
2.再資源化施設(土質改良プラントを含む)
3.有償売却(土工事請負業者が建設副産物を売却し、
代金を得た場合)
4.建設発生土ストックヤード(再利用工事が決まっている
場合)
5.海面埋立事業(海岸、海浜事業を含む)

最終処分場・その他
(処分された場合)
6.最終処分場(海面処分場)
7.最終処分場(内陸処分場)
8.建設発生土ストックヤード(再利用工事未定)
9.焼却施設・再生処分場へ持ち込むための中間
処理施設
10.その他(具体的に記入)

注2:再生資源利用促進量について
現場外搬出量④のうち、搬出先の種類
(コード*13)が1.~5.の合計